

1.5 情報化と宗教

1. 情報化社会と宗教

新しいタイプの宗教あるいは宗教活動
作られやすい宗教・操作されやすい宗教

2. 宗教にとってのメディアの意義

聖書

印刷 ラジオ テレビ・ビデオ インターネット
宗教の伝達と自己表現の手段

3. リアリティの変貌？

伝統的キリスト教：自然と精神、身体と霊という枠組み
情報とは、いかなるリアリティの存在か
ヴァーチャル・リアリティの問題
・ 霊、神の実在性とは何か
・ 自然なしの宗教儀礼？

4. 次元論から

実在の階層構造

ミクロのレベルにおける複雑度の増大とマクロのレベルにおける秩序の創発
物質 生命 心 精神
情報

5. 宗教における情報化されないリアリティ

密教的伝達
間接的伝達（キルケゴール）
隠れた神

<ブックガイド>

西垣 通 『聖なるヴァーチャル・リアリティ』（岩波書店）

生駒孝彰 『インターネットの中の神々』（平凡社新書）

池上良正・中牧弘允編 『情報時代は宗教を変えるか 伝統宗教からオウム真理教まで』
(弘文堂)

水谷雅彦 『情報の倫理学』（丸善）

芦名定道他 『科学時代を生きる宗教 過去と現在、そして未来へ』（北樹出版）

<文献補足>

ハンス・ヨナス 『責任という原理』『主観性の復権』（東信堂）

岡本裕一郎 『異議あり！ 生命・環境倫理学』（ナカニシヤ書店）

< レポートについて >